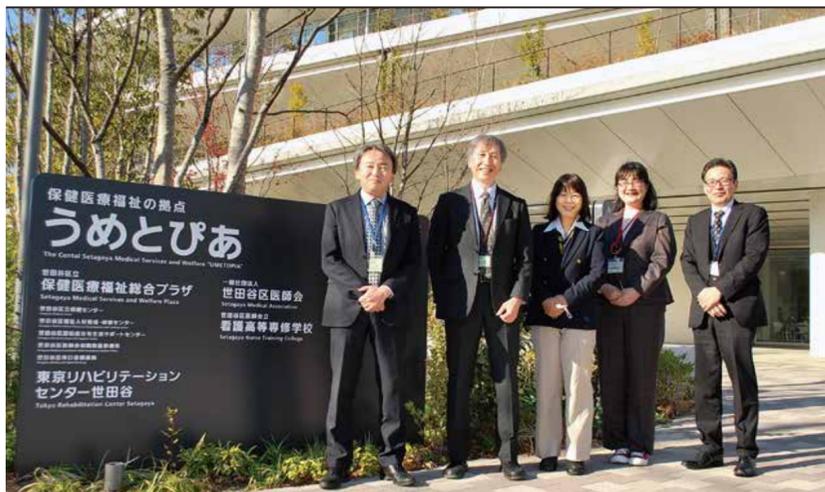




UMETOPIA

創刊号
令和3年
3月25日発行



総合プラザの各センターの職員と正面入口前にて(左から片口、島田、瓜生、永野、濱下)

うめとびあ通信 — Vol.1

世田谷区立保健医療福祉総合プラザ(以下「総合プラザ」)は、保健・医療・福祉の全区的な拠点「うめとびあ」内に令和2年4月オープンした、地域福祉の取組みを推進する複合施設です。「うめとびあ通信」では、総合プラザの各施設の事業や拠点内外の施設の連携事業、地域の皆さんとの交流の取組み等、皆さんと総合プラザ、皆さんと「うめとびあ」とをつなぐ様々な情報をお知らせしてまいります。

世田谷区立保健医療福祉総合プラザのこれから

～ともに取り組む新たな区民サービス～

1 総合プラザ開設を機に

濱下 総合プラザの役割として、「うめとびあ」内の施設間の連携による区民へのサービスの充実と、広く総合プラザを認知していただくことが重要です。今後、運営管理室で地域交流イベント等も企画してまいります。まずは、各センターに、総合プラザ開設による新規事業・拡充事業等をご紹介いただけますでしょうか。

島田 保健センターは、区民の皆さんの検診や検査、健康増進事業、健康相談等を実施してきました。今回総合プラザへの移転とともに「ここから」の保健室ポルタ」を設置し、がんやこころの相談等をお受けするようになりました。がんに関

しては、相談の他にがん検診も行い、区民が必要とする情報提供につなげています。また、こころの相談は、夜間や土日に電話相談という形で対応を始めております。がんやこころの健康に関する資料コーナーを設けて閲覧できるようにし、少しずつ利用者がみえるようになってまいりました。

「障害者の健康づくりプログラム」も拡充し、今年度は、知的障害の方々を対象とした講座を企画しました。今後は障害特性に合わせた健康講座を計画したいと考えております。

さらに「地域医療をバックアップしていく事業」においても、MRI、CT等の装置を機能の高いものに更新し、検査できる項目・範囲も増えました。地域の医療機関の依頼を受けて、精密検査事業を行っています。主にがん検診や健康診断の精密検査

が中心ですが、地域の医療機関の紹介で、都心の大病院等に行かなくてもこの保健センターで一定の検査を受けられる仕組みがあり、かかりつけ医をバックアップしています。

保健センターのここからだの保健室ポルタ



保健センターの受付

総合プラザは、保健センター、福祉人材育成・研修センター、認知症在宅生活サポートセンター、初期救急診療所、休日夜間薬局、貸出会議室、喫茶室(ふれあいカフェうめとびあ)等が複合した施設です。多種多様な施設が集まって、新たな区民サービスを展開してまいります。

今後、各施設の事業がどのように展開し、連携していくのか、座談会でお話を聞きました。

※新型コロナウイルス感染症の影響で事業予定が変更となる場合があります。



総合プラザ座談会出席者

- 島田 浩行 (保健センター医務課長)
- 片口 直英 (保健センター事務局副参事)
- 岡部 悦子 (保健センター管理課)
- 瓜生 律子 (福祉人材育成・研修センター長)
- 永野富美子 (認知症在宅生活サポートセンター管理者)
- 濱下 博文 (運営管理室統括責任者)

Special Interview 特別インタビュー「うめとびあへようこそ」第1回

生き物も人間も多種多様 それぞれの「健康」を サポートするプラザに期待



生命誌研究者・JT生命誌研究館名誉館長
中村 桂子さん (世田谷区在住)

東京都出身。東京大学理学部化学科卒。同大学院生物化学専攻博士課程修了。理学博士。三菱化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早稲田大学人間科学部教授、大阪大学連携大学院教授等を歴任。平成5年JT生命誌研究館を設立。「いのち愛する生命誌」「小さき生きものたちの国で」等著書も多数。平成14年4月-令和2年3月までJT生命誌研究館館長。

総合プラザの印象は

村上 保健医療福祉総合プラザを見ていただいた印象はいかがでしたか。
中村 初めて伺いましたが「これは利用できるぞ」と。まずは入るとカフェがある。皆さんとても美味しくうにコーヒを飲んでいたら、それが百円!そんなところありますか? (笑)
和やかに過ごせるのがいいですよ。美しく、便利で、この施設はいいですね。
村上 保健センターのジムにも興味を示していらっしゃいましたね。この近くで現在もテニスをなさっているそう。
中村 そうなんです。羽根木公園でお友達と。私、あんまり器具で運動するのは好きではないんですよ。でも少しやってみようかなと。
佐々木 保健センターはトレーナーさんがついて下さるのもいいですね。



インタビュー風景

インタビュー

村上 信夫さん

元NHKエグゼクティブアナウンサー。【おはよう日本】「ニュース7」「ラジオタミン」等を担当。現在は東京・京都・大阪等で「ことば磨き塾」を主宰。文化放送「日曜はがんばらない」パーソナリティ。最新刊「嬉しいことが自分を変える」等著書多数。

佐々木 亜希子さん

NHK山形放送局で夕方のニュースキャスターを務めた後、出版編集社を経て活動写真真奔士に。ナレーション、司会、舞台、講演、執筆の他、NPO法人Bmap (Barrier-free movies for all people) 理事長として、バリアフリー映画の制作・上映活動も行っている。

「人間は、38億年の歴史の中で、他の生き物とつながっている」という科学的事実と「〇か×かの機械的な」
「世田谷の不登校の施設で、「生き物の命は大切、といながら、人間はその命を食べなきゃいけない。〇か×かじゃない。間でいっぱい考えることがある」という話をしたら、中学生が「〇か×かじゃなく考えるのはいいですね」と言ってくれたんです。



ご自宅のお庭で

村上 このプラザはトータルで健康寿命を延ばす場所ですね。
中村 そうですね。高齢者がどんどん増えますから、自分が自分を守って健康に暮らすことが大事ですね。

生命誌 — 人間も自然の一部

「私の健康」で気持ちよく暮らす
中村 生き物は多様。人間もそれぞれで、健康も「私の健康」でいい。自分が気持ちよく暮らせるよう、保健医療福祉総合プラザが、みんなと一緒にいいなと思います。

「私の健康」で気持ちよく暮らす
中村 生き物は多様。人間もそれぞれで、健康も「私の健康」でいい。自分が気持ちよく暮らせるよう、保健医療福祉総合プラザが、みんなと一緒にいいなと思います。

YouTube

うめとびあチャンネル スタート

YouTube「世田谷区立保健福祉総合プラザうめとびあチャンネル」スタートしました。うめとびあ通信とリンクし、視覚聴覚障害者にもお楽しみいただけるよう配慮しながら、ニュースやインタビュー、イベント動画を配信してまいります。お楽しみに!

YouTube 配信内容

- 〇グリーンインフラ等の取組み
- 〇福祉人材育成・研修センター紹介
- 〇認知症在宅生活サポートセンター紹介
- 〇会議室等の利用案内
- 〇うめとびあプラザNEWS
- 〇世田谷エール!ライブ 佐藤ひらりさん 大竹英二さん
- 〇インタビュー〈うめとびあへようこそ〉 中村桂子さん 池川明さん



生命誌のグリーンインフラライター
佐藤ひらりさん

プラザNEWS ① 保健センター

「福祉用具展示・相談会」を初めて開催しました!

令和2年9月9日、当センター主催による福祉用具展示・相談会が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響により、各地の福祉用具の展示会が軒並み中止となる中、感染防止対策に万全を期しての開催となりました。



関連事業者20社にご協力をいただき、介護用リフトやスリング、電動車いす、歩行器、入浴用のいす、視線入力装置、コミュニケーション用具等、普段あまり目にする機会が少ない福祉用具が展示されました。障害者が安全でより快適な在宅生活を送るうえで、福祉用具を使用することは非常に有効です。カタログやwebでは、福祉用具の大きさや操作方法、素材の質感を確認するのは難しいため、実物を見て、触れて、操作できる展示会は、とても貴重な機会です。



約70人ほどの来場者は、各ブースで展示品の特徴を質問したり、実際に操作したりして、使い勝手を熱心に確認していました。

この展示会は、今後も、保健医療福祉総合プラザとの連携事業として毎年実施する予定です。次回のお越しをお待ちしております。

(記 / 世田谷区立保健センター専門相談課 障害者専門相談担当主査 柴田純和)

プラザNEWS ② 福祉人材育成・研修センター

「小・中・高校生夏休み介護体験」延べ400人が参加しました!

少子高齢社会が進み福祉人材不足が深刻化する中、福祉の理解を促進しようと、「小・中・高校生夏休み介護体験」を令和2年8月に実施しました。今回はコロナ感染防止の点から、7日間14回に分けて実施し、小学生の親子から高校生、およそ400人に参加いただきました。

参加者は、特殊浴槽やICT機器等の福祉機器の紹介、福祉の仕事のやりがい等の話を聞いた後、実際に車いすや介護ベッド、高齢者疑似体験を行い、修了証を受け取りました。

参加者からは、「大人になったら介護の人になりたい」(小学生)、「これからの活動に活かしたい」(中学生)、「進路選択の一つに考えたい」(高校生)等、嬉しい声をたくさんいただきました。心の片隅にこの体験が残れば幸いです。

(記 / 福祉人材育成・研修センター センター長 瓜生律子)



「車いす体験」「入口が狭かったらたいへん」

「修了証授与」一瞬マスクを外して記念撮影。みんな笑顔でした。

プラザNEWS ③ 認知症在宅生活サポートセンター

世界アルツハイマー月間イベントを開催しました!

平成6年「国際アルツハイマー病協会」が、世界保健機構(WHO)と共同で、毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に、世界中でアルツハイマー病の啓発を実施しています。

当センターでも、令和2年9月4日に認知症講演会、「ふれあいカフェうめとびあ」の協力でカフェスペース内の一部を使って、認知症カフェを開催しました。

認知症カフェの準備は、「認知症サポーターステップアッ

プ講座」を受けた皆さん、チーム名「オレンジハート」にお手伝いいただき、当日は講演会参加者やオレンジハート、認知症のご本人とご家族が交流でき、とても良い時間が過ごせました。これから、認知症のご本人も地域の方も、いつでもだれでも利用できて、交流ができる場所が増えていくように取り組んでまいります。

(記 / 認知症在宅生活サポートセンター 永野富美子)



最後に、オレンジハートの皆さんとハイチーズ!とても素敵な笑顔でイベント終了となりました。



HPはこちら

総合プラザの施設機能

ココがすごい!

世田谷区立保健医療福祉総合プラザは、免震や地球環境に配慮した最新機能を備えた施設です。

第1回 グリーンインフラ

自然環境そのものが本来持っている多様な機能を活用する仕組み、「グリーンインフラ」の機能を多く備えています。これにより、近年のゲリラ豪雨等による水害のリスクを減らすこともできます。

各階のバルコニーを積極的に緑化

バルコニーの土壌は水を一時的に蓄えることができ、雨のピーク時に下水道へ流れ込む雨水の量を抑えることができます。

じゃかご樋

発泡ガラスブロック製の軽石を詰めた雨どいです。一気に雨水が流れ落ちるのを防ぎ、軽石の表面の雨水が蒸発することで、打ち水と同じように外気温の冷却効果も期待できます。

レインガーデン

地下からの湧き水や地表に降った雨水を一時的にため込むことができます。豪雨の際も、排水管や敷地に水が溢れないよう工夫されています。外気温上昇の抑制効果も期待できます。

福祉人材育成・研修センター

永野 認知症在宅生活サポートセンター(以下「認サポ」)は、総合プラザ開設に伴って新たに開設されました。

また、移転後は、高齢者介護の他に、障害福祉、子育て、医療連携にも範囲を広げ、総合的な福祉人材育成施策が推進できるようになりました。研修室の充実によって様々な研修が実施できますし、空いている時間は活動団体や事業者にお貸しして、活動支援もできるようにしました。



研修センターの介護実習室

総合プラザへの移転を機に、介護実習室、調理実習室等の専用の研修室ができ、介護ベッド等の設備も含め研修環境が整い、管理栄養士による栄養の大切さの講義や時短調理、嚥下調理の実演を行いました。動画配信しただけじゃなく、

また、移転後は、高齢者介護の他に、障害福祉、子育て、医療連携にも範囲を広げ、総合的な福祉人材育成施策が推進できるようになりました。研修室の充実によって様々な研修が実施できますし、空いている時間は活動団体や事業者にお貸しして、活動支援もできるようにしました。

また、移転後は、高齢者介護の他に、障害福祉、子育て、医療連携にも範囲を広げ、総合的な福祉人材育成施策が推進できるようになりました。研修室の充実によって様々な研修が実施できますし、空いている時間は活動団体や事業者にお貸しして、活動支援もできるようにしました。



認サポの本のコーナー

2「互いの取組みに学ぶこと」

濱下 総合プラザでは様々な機能を保持する施設が集積する強みがあります。それについてはどうお考えですか。

瓜生 先ほど保健センターが資料コーナーを設けているという話がありました。認知症在宅生活サポートセンター

3「ともに考える新たな区民サービス」

濱下 図書コーナーのアイデアのように、施設間の連携した取組みを推進していくことが期待されています。他にどのようなことが考えられるでしょうか。

瓜生 研修センターは、認サポとは「認知症ケアプログラム」、保健センターとも「高次脳機能障害」や「同行援護従事者養成講座」等、一緒に研修を行っています。

永野 認サポには精神保健福祉士がいて、認知症の方やその介護者のメンタルサポートもしていますので、保健センターの「ポルタ」等の事業とも連携できるのではないかと思います。



カフェうめとびあ

4「カフェを活かしてさらなる事業展開」

永野 9月に「カフェうめとびあ」の連携で認知症カフェを開催させていただき好評を得ましたが、できれば定例化していきたいです。認サポには、認知症サポーターの方々にさらにも自主的に企画、活動できる人材に育ててほしいので、「カフェうめとびあ」での定期開催は様々な意味でメリットがあります。

濱下 カフェのスペースは、様々な形で有効活用していただくことができるのではないかと思います。認サポとの「認知症カフェ」、研修センターとの「手話カフェ」は手始めにいい成功例だと思います。保健センターも、お茶をしながら健康についての話を聞く「健康カフェ」等ができたらいのではないかと思います。

永野 認サポでは、ストレスケア講座も開催していますので、「カフェでストレスフリー」等もいいかもしれません。

濱下 認知症の方々も含め、イベントに参加した方々はとてもイキキ

した表情になりますから、新型コロナウイルスが落ち着いたら、カフェで生の音楽を聞けるようなイベントも開催したいと思っています。

瓜生 この建物のインパクトは大きいですね。これだけ立派で大きな空間をどう生かすか、連携を図ることとともに、考えていきたいと思っています。

濱下 テラス、中庭を活用しての健康体操等も、保健センターとの連携でできたらいいかもしれません。

最後に、総合プラザでは、本日お話しいただいたことを踏まえて、各施設の様々な取組みにおいて常に連携を意識し、積極的に企画・推進していきたいと思っております。今後とも、「うめとびあ」内の施設が連携してのイベントも実施したいと考えていますので、どうぞよろしくお願いたします。

総合プラザの新型コロナウイルス対策

※当施設は新型コロナウイルス感染症予防・感染拡大防止について十分な対策を行っております。

(対策の一例)

- 国や東京都のガイドライン、世田谷区の区民利用施設の利用ガイドラインを遵守します。→マスク着用、サーモカメラ検温、手指消毒、こまめな換気、適度な間隔確保等
- 座席数や入室人数を必要に応じて制限しています。
- カフェ 座席数を減らして配置を工夫し、金銭の受け渡しはトレーを使用しています。
- 研修センター Webによる研修、講座、施設見学等を実施し、ZOOM等も導入しています。
- 認サポ Webによる研修、オンライン情報交換会を実施しています。